

屋外のこんな場所にいたら

路上では

- バッグなどで頭を守り、低い姿勢をとる。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物、自動販売機の転倒に注意。住宅街ではブロック塀などから離れる。
- 橋などは壊れやすいので、揺れがおさまったらすぐに避難する。



車の運転中は

- 急ブレーキは事故のもと。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 緊急時に移動させる場合は緊急車両のじゃまにならないよう配慮する。
- 車を離れるときは車検証など貴重品を持ち、キーはつけたままでロックもしない。

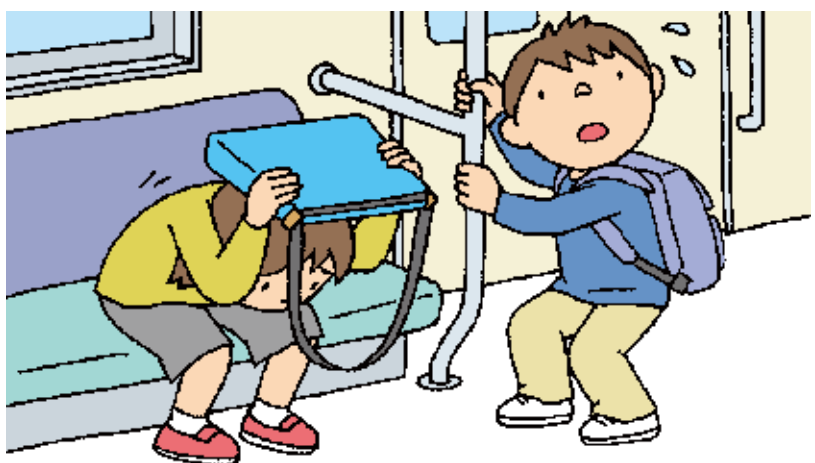
海岸や川・がけ付近では

- 海岸や川の近くにいたら、ただちに高台や近くの高い建物、指定の避難場所などへ逃げる。
- がけの近くにいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れる。



電車やバスの中では

- 緊急停車に備え、つり革や手すりをしっかりつかまる。
- あみ棚からの荷物の落下に備え、バッグなどで頭を保護する。
- 勝手に車両から降りず、係員の指示にしたがう。



「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報を視覚的に発表されたことをお知らせする旗で、ライフセーバーにより振られたり、建物に掲げられたりして津波の危険をお知らせするものです。



防災 記入チェック欄

外出先で地震にあったら？

むやみに移動をはじめるのは危険です。次の3つのポイントをおさえて冷静に行動しましょう。

家族の安否を確かめる

災害伝言ダイヤル171など、通話以外の安否確認の手段を決めておきましょう。(裏表紙参照)

駅には近づかない

駅の周辺は人があふれて危険です。交通機関が復旧するまでは近づかないようにしましょう。

正確な情報を集める

勤務先や学校などの安全な場所で、被害や復旧などの正確な情報を集めましょう。

